

# φ400ロータリーバルブを初施工

加西市の配水管工事で設置

## コスモ工機 フランジレスで不断水分岐

コスモ工機は18、19日、φ400×400Nの回転弁を組み込んだ分岐ロータリーバルブの基礎を、兵庫県加西市内の配水管に設置した。事業体ニースに呼び寄せたインテックが短時間でメカニカル形状なので、新設管の自由度が高まり、狭小スペースに追加されたφ400は、

ロータリーバルブは、割字管の内部に弧状の回転弁を組み込んだ分岐品で、従来の割字管と異なり、分岐部の仕切弁が不要。穿孔機小型化も実現している。分岐側が短時間でメカニカル形状なので、新設管の自由度が高まり、狭小スペースに追加されたφ400は、

1スで小回りのきく配管NS形受口を採用。昨年の名古屋水道でも風景され、参加者の関心を集めた。今回の工事は、加西市生活環境部上下水道課発注の、西上野橋配水管工事で、元請はインテック。住宅が点在する市道に併設されたφ400は、



狭小スペースに耐震型ロータリーバルブを設置

現場は分岐方向のスペースが狭く、従来の割字管では穿孔機の取り付けに際し、護壁体が必要で、分岐後の配管が道路幅員に収まらないなどの問題があった。現場調査の結果、狭小スペースに設置可能なロータリーバルブを採用し、新設のNS形ダクタイル鉄管へ布設された。中径のロータリーバルブは、不断水簡易仕切弁と併用した切り直し工事で優位性がある。従来の割字管の換弁、分岐部に仕切弁が残るなど、維持管理上の課題があったが、ロータリーバルブは分岐弁内蔵で仕切弁や弁管も不要。分岐部がフランジレスで、曲管を直接接合できるため、配管上のメリットも大きく、幅員が他の配管や分岐方向に障害物がある現場でも、威力を発揮するといえる。

現場で作業を見守った当番は「狭いスペースでの施工も可能で、他の現場へも積極的に提案していきたい」と話した。同社は近々、φ500ロータリーバルブも発売予定。

# 耐震型ロータリーバルブ

加西市で初施工

## 口径400ミリ開発

コスモ工機

コスモ工機は新水分岐用割字管工法「コスモ」穿孔機の小型化、工事「モ」ロータリーバルブのベースの縮小などを表現している。同バルブの径はφ400を新たにラインナップ。このほど初施工を行った。

ロータリーバルブには割字管に内蔵させた円弧状の弁体が分岐部を開閉するコンパクトな構造となっている。分岐部の形状には耐震性を確保した。また、分岐部の形状には耐震性を確保した。また、分岐部の形状には耐震性を確保した。

従来の割字管は、分岐部の形状には耐震性を確保した。また、分岐部の形状には耐震性を確保した。



穿孔(上)と設置完了の状況(下)



日本水道新聞 2015年3月30日号 18面